

暑すぎた絶景

朝日連峰 石見堂岳～赤見堂岳～紫ナデ～大井沢

佐貫

【日時】 2010年12月29日(土)～31日(日)

【メンバー】L佐貫、田村、棚橋、M氏

12月29日 雪

寒河江からタクシーに乗り込み、膝の上に乘せたザックで足がしびれてくる頃月山ICを降りて砂沢橋に着いた。偵察の結果取付地点と定めた場所から、スノーシューを履いて歩き出す。恐らくここ一週間のものと思しき積雪が約1m程度、所々灌木が顔を出してはいるが、それほど藪が濃いか急だということもなく登りやすい尾根である。気温が高く、風に吹かれても汗がじわじわと出てきて、ヤッケの外から中から濡れてくる…。c757で小桧原川左岸尾根に合流するまでが意外に長く感じられたのは、重荷のせいなのか、トレーニング不足なのか。

雪は次第に深さを増し、部分的に急なところもあってスノーシューの浮力をもってしても腿まで沈むようになったので、ついに先頭は空身となつてのラッセルを開始。1080mあたりで急に気温が下がり、先ほどまで湿雪が表面にはりついてきたヤッケや手袋が一気に凍ってバリバリになった。だだっ広い稜線には風が吹き抜け、ガスが出て視界も断続的に悪くなる中、少し嫌な感じのする吹き溜まり斜面を田村さんがラッセルして石見堂岳の山頂の一部であろうと思われる平らな場所に着く。本当は石見堂を越えて少し下りたあたりを幕場にするつもりだったが、矮小灌木が強風でブルブルと揺れ、多少降りたくらいでは適地が見出せそうにない。相談の結果、少し戻って吹き溜まり斜面の端を整地して泊まることにした。夜中の除雪を覚悟していたが、幸いテントが埋まることはなかった。



重荷がキツイ…

【ザックを下ろして】 思ったより穏やかだったが、石見堂を越えられなかったのは残念。久しぶりの山のせい、年齢のせい、調子が上がらない。(田村) / 偵察に訪れたときは打って変わつての雪景色。ラッセルも4人いると、負担が少ない。今後の天候が気がかりだ。(棚橋) / 久しぶりの荷物にヒイヒイの初日。初日から翌日以降の行動を心配しなければならない天候というものもどういうものか。仕方がないというしかない。こんな山では停滞もできない!? (M)

12月30日 晴れ後曇り一時ガス

穏やかな朝だった。テン場から一段上がるとすぐに石見堂岳。主稜線上はガスに覆われているものの基本的には晴れていて、一本南のエスケープルートがよく見える。私



快晴の赤見堂岳に立つ

は最悪でもあそこまで行けるだろうと気軽に考えていたが、Mさんは万が一のために赤布を付けていた。さすがである。

赤見堂岳までは細かいアップダウンが続く。いつしか主稜線もすっかり雲がとれ、素晴らしい快晴に。ようやくたどり着いた山頂からは大朝日岳をはじめとした朝日連峰の山々が美しく連なっている。振り返ると真っ白な月山と鍋森。遠くに鳥海山、西に目立つのは摩耶山だ。ただでさえ心に沁

みる風景、他の3人にとっては特別の思いがあったのではないかな。

あまりラッセルが深くないため、エスケープルートの分岐にはすぐに着いてしまった。当初は無理かと思っていたが、時間的にも天候的にも何とかかなりそうだ。話し合い、思いきって先に進むことにする。ただ明日は大荒れ必至なので、今日中に紫ナデを越え安全圏に入ることが必要だ。



天気崩れと競争するように進む

枯松山までは順調だったが、次第に雲が出てきた。大桧原山への登りからは視界も急激に悪くなってきた。眼鏡の私には辛い。時々視界が利くのが救いだ。大桧原山より先は尾根がやや細くなり、藪がややうとうしい。私はこの辺りからばててしまい、遅れがちになる。紫ナデの登りでは10mも離れると先行の姿もトレースも見えなくなってしまい、苦勞し

た。ようやく着いた紫ナデに標柱を見つけホッとす。ここからはもうエスケープだ。しかし下る尾根は真っ白でわからない。Mさんがうまくルートを見つけてくれた。木が出てきたところで泊とする。

【ザックを下ろして】 なんと紫ナデまで来てしまった。朝は無風快晴、午後は風雪と天気のフルコース。高倉山からのシャクナゲ(?) 踏み抜き地獄には発狂しそうになった。(佐貫) / 荒天前の好天について紫ナデまで来ることが出来た。もう一日、天気もってくると更に良いのだが。(棚橋) / 数時間の快晴と適度な風雪の中、終日山を楽しんだ。障子ヶ岳や主脈は随分と遠い。(M) / 今日は疲れた～!! バテてしまいました。でも、ダメかと思った紫ナデまで来れて本当に良かった。(田村)

12月31日 曇り後雪、時々晴れ

目を覚まして外の天気を伺うと、それほど悪くはなさそう。紫ナデまで登り返して障子ヶ岳まで縦走を続ける可能性も有ったが、天気予報等を鑑みて、このまま大井沢の集落に下山することにする。

昨日偵察した感じだと、この下はやや急のように感じられたのでアイゼンを着けて下降を開始する。しかし雪の状態が悪くなかったせいか、問題なかった。鞍部まで下降したところでスノーシューに履き替える。少し登り返した後は夏道に従い、下降気味にトラバースした後、やや細めの尾根の下降を続ける。しばらく進むと下部に支沢が現われ、こちら側に赤布、向こう側に道標が見える。夏道は支沢を横断しているのだろうと、飛び石にて渡るとここが出合吹沢だった。

大井沢川沿いに進むと堰堤が現われ、更に進むと林道を確認させられる標識が見えた。手持ちの地形図にはまだ記載されていない堰堤を造るため、林道が延びているのだろう。雪が強く降ったり、晴れ間がのぞいたりを繰り返す忙しい天気の中、先頭交代しながら一生懸命林道ラッセルを続けていくと、ようやく大井沢集落の除雪地点が現われた。そこからゴールである橋本荘へは、目と鼻の先だった。



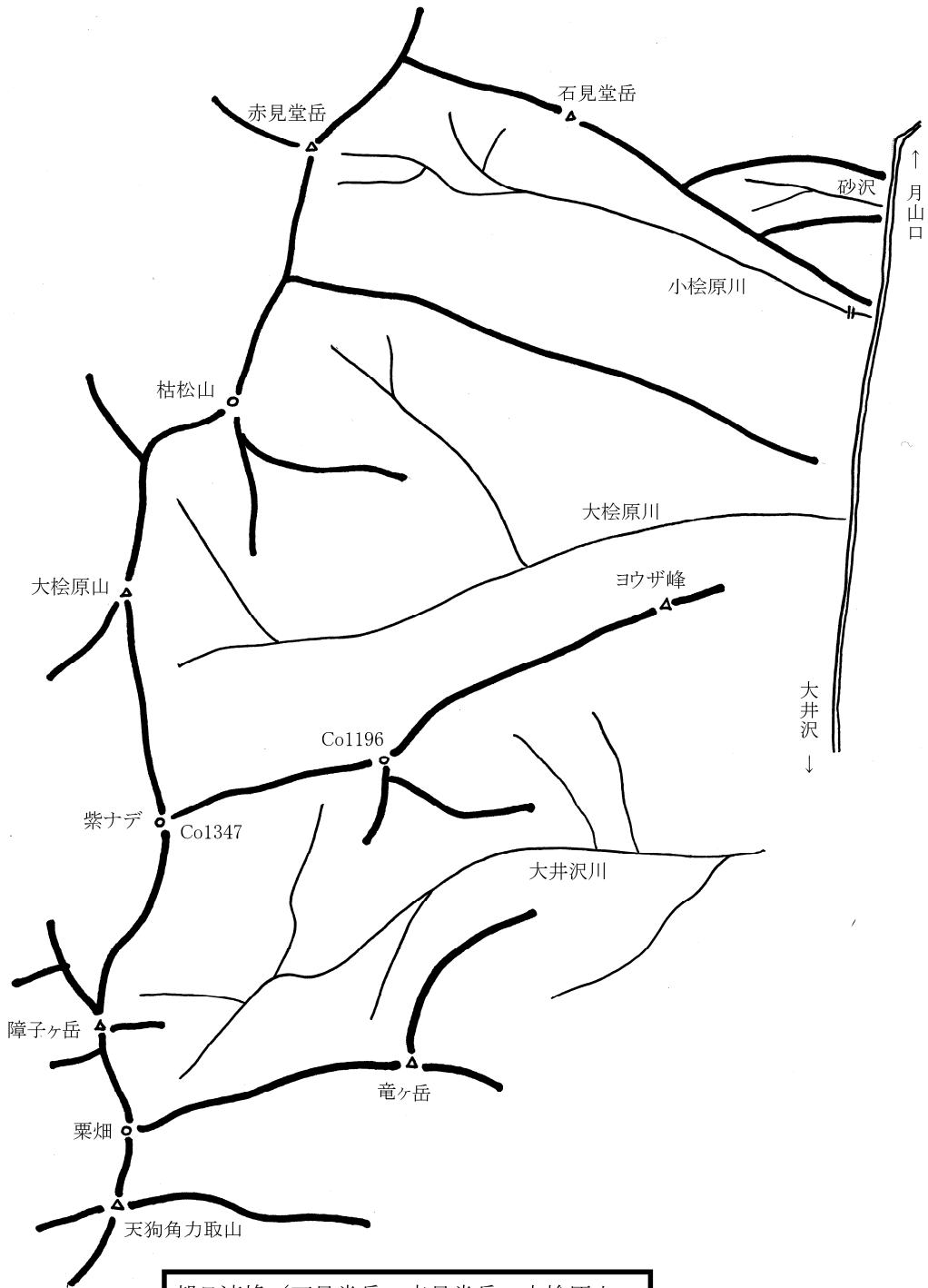
ゴールは民宿「橋本荘」

【ザックを下ろして】時々晴れ間も出るという、天気予報からは信じられない天気。ともあれ無事に大井沢にたどり着きました。来年も頑張って雪山やろうね。(佐貫) / 天候がそれほど悪化しない中、ゴール。下界は薄日すら射しているが稜線は風雪が強い様子。雪山は条件次第だと改めて感じられた。(棚橋) / 予想外の好天の中下ることができました。幸せな年末山行です。(田村) / いつの間にかの下山。小康状態の中で、橋本荘に落ち着く。町での年末は久しぶりだが、これもまたよい。山は大荒れだろう。(M)

【行程】

- 12/29 タクシー降車(6:40)～取付(6:48)～Co757m(9:22)～Co951m(11:05)～石見堂岳(14:18)～Co1270mC 1 (14:25)
- 12/30 C 1 (6:30)～石見堂岳(6:44)～赤見堂岳(8:45/9:06)～Co1327m付近(9:44)～Co1271m付近(10:10)～枯松山(10:40)～高倉山Co1400m(12:02)～大桧原山(12:45)～Co1320m(13:48)～紫ナデ(14:55/15:05)～Co1230mC 2 (15:37)
- 12/31 C 2 (6:28)～出合吹沢(8:48)～南俣沢出合(10:11)～大井沢集落(11:40)

【地形図】 赤見堂岳、大井沢



朝日連峰／石見堂岳～赤見堂岳～大桧原山
【日時】2010年12月29日(水)～31日(金)
【メンバー】佐貫(L)、田村、棚橋、宮内(わらじの仲間)
【作図】棚橋